

つるおか芸文だより



第11回鶴岡市 芸術祭賞決定



鶴岡土曜会混声合唱団第65回定期演奏会(11月26日)

一週間前の全国大会と連続の演奏にも関わらず、見事なステージを披露した。構成にも無駄がなく、演奏に充実感があつた。とても心地よい音楽を聞くことができた。また微笑みをもって歌う姿勢には自信と誇りがあり、喜びを込めた演奏



12/23の閉幕のついでにも素晴らしいハーモニーを披露したメンバー

一週間前に鳥取市で行われた、全国大会の報告も兼ねたステージとなり、また六十五回の記念として団員がソロを歌い、モーツァルトのミサ曲にも挑戦しました。

＜阿部代表筆の報告書より＞

は聴衆を幸せに包んだ。長く歌い続けることに敬意を表すとともに、その安定感には「大地に根を張った合唱団」であることを感じた。高いレベルで市民に受け入れられ、伝統に裏打ちされた充実感溢れる演奏を讃えたい。

大賞に鶴岡土曜会混声合唱団 準大賞は鶴岡和紙ちぎり絵サークル

優秀賞には六団体が選ばれました



閉幕のついでに準大賞を受けた鶴岡和紙ちぎり絵サークル

手すき和紙を重ねて創り上げる世界には、絵画とはまた違った魅力があり、風景、生物、人物等を表現する繊細な作品の数々が、鑑賞者に感動を与えている。児童の体験講座作品の展示など、子ども達への普及活動にも長く取り組み、わかりやすさ、親しみやすさが幅広く市民に受けている。

今回は特に、会員の作品に秀作が揃って好評であった。

- ❖第4回フォト・アイ写真展..... フォト・アイ
- ❖第15回田川民話の会語り市 んだば、語てみっがの。温海宿..... 田川民話の会
- ❖男声合唱団デザミ・アンティム 横浜並木男声合唱団ジョイントコンサート2016..... 男声合唱団デザミ・アンティム
- ❖2016年V i V iバレエスタジオ発表会..... V i V iバレエスタジオ
- ❖AKIKOフラメンコスタジオ鶴岡20周年記念公演 華のかほり「~フラメンコへの想い~」..... AKIKOフラメンコスタジオ
- ❖表千家流茶会..... 表千家同門会山形県支部庄内地区

優秀賞 (順不同)



テープカット



祝歌合唱



文化会館設備充実の寄付金を榎本市長贈呈



佐藤文一市議会議長による「乾杯！」

感動を共有した質の高い公演

第11回鶴岡市芸術祭を終えて

NPO法人鶴岡市芸術文化協会会長 東山 昭子



45公演55団体参加の第11回鶴岡市芸術祭も市民各位と感動を共有し合って、大きな成果を挙げて終了することが出来ました。受賞団体の皆様おめでとうございます。加盟各団体・会員各位に厚い敬意と感謝を表します。ご後援賜った関係各位、共催の教育委員会担当者や芸術祭選考委員各

位のご支援に深甚の御礼を申し上げます。更には協賛会員として芸術祭を暖かく見守り、協賛会費のご協力を賜った方々、会場に向いてご鑑賞下さり、感動を同じ場所、同じ時間、共有して下さった多くの市民の皆様有難うございました。第11回芸術祭は組織体制改変後の長期間にわたる初めての催事であったため、様々の緊張感を以て臨んだ芸術祭でありました。閉幕の集いまで含め万般にわたっての成功は、そ

れだけにうれしさ無限であると共に、積み重ねられて来た力の集積を、活力として感じた力強い一歩となりました。最終選考委員会での長時間の熱の入った討議を身近に聴聞しながら「友情の証」として満場一致の結果を出して下さったことは感激です。出演者3千3百名余、入場者2万3千名の多数に及びました。芸術文化はすべての年代の方々の生きる「今」を、いのち輝かせる豊かさでつなぎ、ここに生きる喜びを分かち合う、最も人間的な営みであります。鶴岡の未来のために、生きて在る自分のために、明日また感動を共にする新たな挑戦に期待しております。

第11回 鶴岡市芸術祭参加公演を観て

選考委員の方々から



演ずる人と観る人の間に、心の橋が架かった
邦楽・白舞・民踊・民舞・吟詠部門
中里 欣一

限られた広さの会場で、各公演が行われた。舞台と客席が一体となって不思議な空間が醸し出された。観る側には演者の息遣いまでが感じられる一方、演者にも客席の感動が伝わった。新文化会館が完成した時、心の架け橋が更に深化するのか。新しい器に何を盛るか課題である。



豊かな庄内弁で
見事なほどの世代間交流
大衆芸能部門
久保田 豊

当芸術祭の中で、一番豊かな庄内弁で発表しているのは「田川民話の会」だろう。聞く者にとって、庄内で生活をしている実感が伴う。下は、小学二年、上は九十歳が、同じ時点で同じ趣味を楽しんでいる。その上、田川九地域で巡回発表していることは、地域に息づいている証である。



第十一回鶴岡市
芸術祭公演を観て
洋楽部門
堀 公明

どの公演も熱気溢れる美しい演奏に満ちていた。特筆すべきことは、それぞれが殆ど満席であったこと、更に各団の交流が見られ互いに聴き合う様子が感じられた事です。音楽は聴くことから始まり又沢山の音楽を聴くことによってそれぞれの音楽の姿が見えてくるものでしょう。

芸術祭賞選考委員

- 選考委員長 佐藤 政一
- 選考副委員長 小林 達夫
- 選考副委員長 佐藤 晃
- 中里 欣一
- 後藤 和夫
- 小林 功
- 久保田 豊
- 堀 公明
- 藤間 静貴久
- 伊達 克夫
- 牧 慎一
- 市川 清治
- 五十嵐 重良
- 佐藤 宗良
- 小澤 紀美
- 小林 良市
- 三浦 恒祺
- 日向 常浩
- 日藤 よし子
- 佐藤 宗健
- 小林 宗健
- 梅津 芳春



選考委員会の様子

| 部門 | 日時・会場 |
|----------------|--|
| 邦楽・日舞・民謡、民舞・吟詠 | 11月28日(月) 午前10時～ 中央公民館 2階 第2会議室 |
| 大衆芸能 | 11月1日(火) 午前10時30分～ アートフォーラム 2階 会議室2 |
| 洋楽 | 12月4日(日) 午後4時～ 中央公民館 2階 第2会議室 |
| 洋舞・演劇 | 11月28日(月) 午前10時～ 中央公民館 2階 第2研修室 |
| 展示・茶道・華道 | 12月2日(金) 午前11時～ アートフォーラム 2階 会議室2 |
| 文芸 | 11月4日(金) 午前11時～ アートフォーラム 2階 会議室2 |

新体制で初の芸術祭強く印象に残る

世代を超え市民全体の心豊かな生活の実現を

鶴岡市教育委員会教育長

加藤 忍



関係各位のご尽力に、改めて御礼を申し上げます。

今回は、鶴岡市芸術文化協会が特定非営利活動法人として新たな体制で臨まれた初の芸術祭となりました。各公

毎年鮮やかに秋を演出する鶴岡市芸術祭が、今年度も盛会裏に閉幕しました。

加藤団体はじめ

演ともそれぞれに趣向を凝らし、日頃の研鑽の成果が存分に発揮された内容で、より多くの市民が芸術に触れる機会をご提供くださいました。

期間中は、天皇・皇后両陛下をお迎えしての「全国豊かな海づくり大会」も開催され、その協賛イベントとして、会員の枠を超えた様々な世代やジャンルによる企画「海づくりアート鶴岡」も実施されるなど、市民にとりまして、強く印象に残る三ヶ月だったものと

存じます。

また、新しい試みとして、県文化振興プランに基づく重要事業「総合型文化クラブ」にも取り組まれ、地域の中で受け継がれてきた文化の継承と若い世代の育成にも力を注がれました。

芸術文化を取り巻く環境は厳しさを増し、人口減少や少子高齢化などの課題に直面せざるを得ない今日ですが、子どもたちの創造性を育むこうした活動には、これからの芸術文化活動の目指すべき姿を見る思いが致します。世代間の交流を契機とした、市民全体の心豊かな生活の実現のためにも、皆様には引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

第11回 鶴岡市芸術祭参加公演を観て

選考委員の方々から



夫々がその特長を生かした熱演

洋舞・演劇部門
五十嵐 重良

今回の洋舞・演劇部門は五公演。バレエは若人が堂々の踊りを披露、たのもし。朗読は「個声」それぞれで物語を滋味深く。現代舞踊はキリリと優美が織りなす洗練された踊り。演劇は多いセリフを頑張り熱演。フラメンコは華麗、迫力ある踊りで観客を魅了。



積極的な解説などで深く味わえた

展示・茶道・華道部門
小澤 紀美

今年は展示十五部門・茶道三部門・華道一部門の計十九部門の公演でした。展示部門は、絵画五・書道四・写真四・盆栽二と多彩な内容で、いずれも一年間の研鑽を積んだ発表で年々レベルが向上している。会場では入場者に積極的に説明等行い内容を深く味わうことが出来た。



どの公演も観る、聞く者の心をとらえた

文芸部門(民俗芸能部を含む)
日向 常浩

○田川民話の会、語り市、小学生から九十歳の語りへの好演。会場の選定、工夫と満員にする普話に感動。○鶴岡合同短歌会。流石伝統芸術、格調高い出詠歌、適格な歌評、内容豊かな公演でした。○朝日俳句短歌、川柳合同展、小中学生のすなおな句に感銘、古里の土の香がした。

創立92周年白麩社美術展

● 8月27日～9月6日
● アートフォーラム
● (公募)



今年度は、最近減少傾向にあった出品者、出品点数共増加し会員は勿論、一般応募作品も個性豊かな力作が多く充実した公募展を開催出来ました。大へん嬉しい結果です。又、ギャラリーの展示も一部配置変更を行いました。これも見やすくと好評を得ることが出来ました。厳しい残暑の中での開幕、又台風10号の襲来予想等悪条件が重なり入館者の減少は残念でした。これからも会員一同切磋琢磨し自慢出来る公募展を開催する覚悟で頑張ります。
(三浦恒祺)

発表会『白雪姫全幕』

● 9月11日
● 中央公民館



白雪姫全幕を、久しぶりに生徒主役で上演出来感慨深い思いでした。幼稚園児から高校3年生までの努力と練習が今回の結果につながったと思います。今年も生徒全員、父兄も協力、発表会に向かっていけたと思います。
高校3年生の最上級生が卒業し、又気持ちを新たに練習を続けていきたいと思えます。そして一人でも多くの生徒が、今回の卒業生の様に上達していく事を願っています。
(佐藤京子)

第30回書法研究山紫会展

● 9月16日～19日
● アートフォーラム



会員27名83点の出品。節目の30回記念展として一同力を入れた。例年より大きな作品は少なかったが、個性を出した小作品で多彩な会場を造ることが出来た。又参考出品の時代の異なる著名人の書は会場を引き締めた。
書くことの楽しさを表現出来れば、楽しい会場が出来ると思うので、その事をモットーにしたいと思えます。
(小林空山)

第46回錦心流琵琶演奏会

● 9月18日
● 中央公民館



琵琶で語る「平家物語」と題した演奏会は、映写により歌詞を大きく映し出したので、見聴きしながらの観賞は内容がよく理解されたいと思います。平家琵琶の演奏は薩摩琵琶との違いを知られ、よかったと思えます。
琵琶と他の楽器や音声とのコラボを考え、調和した邦楽の魅力を創作し、巾広く語ってみたいと思えます。
(市川清治)

あつみ作品展

● 9月21日～23日
● 温海ふれあいセンター
● 粕谷書道教室 ほか



多数の分野の方々が協力しい開催しています。今回は、会場内にBGMを流し、ゆったりとしたスペースで作品の鑑賞をしていたらどうと工夫しました。また、来場者とのコミュニケーションを大切に休憩コーナーを設けたことも好評でした。
各分野が合同で開催することにより、出展者同士の交流と研鑽を図り、より多くの方から楽しんでいただけるように、会場の展示レイアウトを工夫し、出展者の活動紹介も出来るようにしていきたい。
(粕谷洋子)

んだば、語てみっがの。温海宿

● 9月24日
● 温海ふれあいセンター



上部団体やまがた民話の会協議会第16回発表会・温海昔話の会結成12周年発表会と併催。他の公演では見られぬ80歳以上の年令差の出演者ではあったが昔話の楽しさ、あつたかさを十二分に感じたと、お誉めの言葉しきり。
先人からの知恵・真理等を受け継ぐ民俗文芸は、AI化に拍車のかかる現代には、絶対に外してはならない分野・部門と云える。ロボット至上主義に待ったをかけるのはやはり、民話しかない。そんな気持ちで来年も！
(帯刀春男)



裏千家 秋の茶会

裏千家淡交会庄内支部鶴岡地区

● 9月25日
● 出羽庄内国際村

濃茶席、薄茶席の二席の茶会でした。当日は素晴らしい晴天となり多数のお客様を迎えることとなりました。初秋の風情を感じられる茶席に参加者も楽しんでおられました。運営もスムーズに行うことができました。来年度も、同様の内容で「茶会」を開催する予定であります。

(小林宗健)



表千家流茶会

表千家同門会山形県支部庄内地区

● 9月25日
● 致道館

天候にも恵まれ、多勢のお客様にお越しいただいたことを感謝しております。お茶会参加も会場の致道館が初めてという方も多く、会場を含め、好意的な感想を寄せて下さったのは嬉しいことでした。茶会一席が約30分の短いひと時を、美味しいお茶とお菓子は勿論のこと、お客様が和やかに心地良くお過ごしになれるよう、会員一同力を合わせ努力したいと思います。茶の湯の楽しみの多様さ、清々しさを感じていただけるような茶会を目指します。(佐藤宗恵)



第38回佳陽会日本画展

佳陽会

● 9月27日～10月2日
● アートフォーラム

38回日本画展は一人3点(ふたり展は5、6点)の作品を展示し、入場者からは「毎年とても楽しみにしている」「この会場に来ると癒やされる」という声を頂いた。会員の高齢化により作品の飾りつけが大変になってきた。手当てを払って雇うことも考慮したが、今回は何とか自分達の手で出来た。次回は検討が必要である。

(茅野 淑)



第52回民謡と舞踊のつどい

さざ波会

● 9月25日
● 中央公民館

今回は、従来入場料を戴いていたのを、入場無料にしたので、どの位のお客様が来場されるか見当がつかなかった。幕をあげて見れば満席に近い客席で大成功だった。スポーツ民謡Kサークルの皆さんの御協力にも感謝です。次回も今回の内容を続けたいと思う。鶴岡で唯一の民謡の継承発表団体として、愛好者に心の癒しと、伝承文化の継承に一層力を注ぎたい。いつもだが、会員自らが「ヤル気」になっている。次回も、乞ご期待。(佐藤 睦)



遠州流茶会

遠州流茶道山形支部

● 10月9日
● 第二コミセン

今年、遠州流茶道山形支部は創立60周年を迎えました。また宗実家元は華甲の年を迎えられて二重の喜びで、6月に記念行事を行いました。地域の皆様にご感謝の心を込めた一服のお茶で感じていただけたものと思っております。これからも継続して参加してまいります。(五十嵐宗輝)



第27回鶴岡和紙ちぎり絵サークル展

鶴岡和紙ちぎり絵サークル

● 10月6日～10日
● アートフォーラム

今回の作品は昨年よりレベルアップした良い作品が展示出来良かった。児童対象の体験講座も多く会場もゆったり取れたのは良かった。若い世代が和紙に触れ又和紙に興味を持ち伝統工芸の和紙を広めてゆければと思います。会場に来てくれた人で和紙に興味を持っている人もいて実習している所を見たこと云うので、「是非教室に見に来て下さい。」と言いました。会員の増える事は大変うれしいので是非仲間に入っていただきたいと思っております。(佐藤久美子)

第31回八沢会唄と踊りのつどい

●10月9日
●中央公民館



中央公民館での開催が3回目になり、ホールは満席となったが入城整理券を発行しスムーズに進行できた。6コマの文化祭と競合し駐車場の混雑が心配されたが係を配置する等してトラブルなく終了することができた。

近年毎年のように国文祭に参加してきたが会員の高齢化もあり、近隣県開催に限ることとした。なお会員からは山形の花笠まつりに参加したいと希望も出されており、考慮したい。来年の発表会を目指して頑張ります。(鈴木 末)

シンフォニック荘内流第28回公演

●10月15日
●中央公民館



「笑う門には福来たる」幸せな曲、笑顔になれる曲心が豊かになれる曲として練習を重ね全員での演奏でした。オープニングを湯田川神楽で笑いをとり、お琴の演奏におどりや太鼓の子供達、ドラム・ギター・三味線などが加わりとてもすばらしい公演となりました。

2017年テーマ「藝」
「人と人の和」を創流理念に掲げ伝統文化を継続する大切さを学び歌と琴と友と奏でる喜びを感じながらますます芸術を高め合おうことを願いつつ第29回公演に臨みたいと思います。(梅津芳春)

第53回各流派合同いけばな展

●10月15日～16日
●アートフォーラム



今年の出瓶数は173瓶でした。アートフォーラムという素晴らしい展示場なので、どの花も映えて見えました。他流派や会場係の方々のご協力により、大過なく終えることが出来ました。

今後も、研鑽を積み、皆様にいけばなを楽しんで頂きたいと思えます。流派の個性や特徴を生かし、「伝統文化いけばな」が、長く継承されるよう努めて参りたいと思えます。(佐藤瑞肇)

如月会水墨画展

如月会

●10月15日～18日
●中央公民館



出品数は51点(昨年比マインス3)。6～50号(昨年比マインス10点)、4号(昨年比プラス7点)、全国展で上位入賞作品から、今年より習い初めの作品まで幅広く内容も深い展覧会となった。入場者は、初めての方や常連の方と多くの方が来ました。

新たに出品する人を増やし、また内容もさらに充実していきたい。(梅本幸仙)

横浜並木男声合唱団ジョイントコンサート

●10月16日
●中央公民館



横浜並木男声合唱団の音楽は楽しいもの、客席とステージが一体となる音楽を創ろう、というコンセプトが十分生かされた客席との一体感が生み出されたステージとなり、市民に感動と興奮を与えたコンサートとなりました。

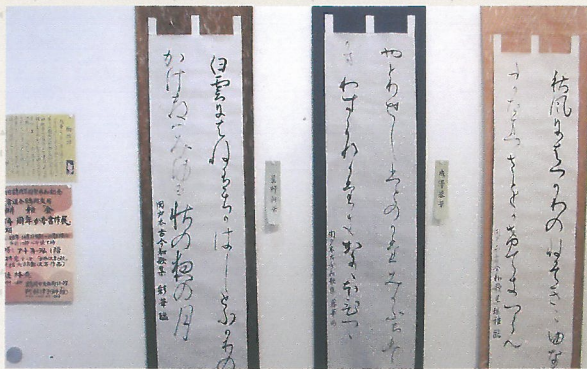
平均年齢は75歳を超えています。平均年齢は75歳を超えていますが、いつまでも楽しく元気に歌い続け、福祉施設訪問演奏などにも積極的に取り組みなから、次回の演奏会開催に向けてレパトリリーを着実に増やしていく活動を続けていきたいと思えます。(菅原 求)

第54回鶴岡市合同短歌会

●10月16日
●市立図書館



今年には山形新聞の選者をなさっている井上菅子先生に指導をお願いしました。58首全部に歌評を頂きました。質問の時間を十分にとり、日頃疑問に思っていることに丁寧に答えて頂きました。有意義な歌会でした。昨年より、合同短歌会の主催を4つの結社で進めることになった。1つの結社では「人」「お金」など、難しくなったので、合同短歌会への参加者を多くするために、結社に入っていない人にも、案内チラシを届けたらした。(富樫正子)



34周年かな書作展 耕雅会

● 10月21日～23日
● アートフォーラム

芸文協に入会して、初めての書作展でした今回は10月に書作展が出来ましたので前回より74名もふえて盛会に終る事が出来ました。仮名書道だけの展覧会はめずらしいと言われました。変体仮名に興味を持たれました。

来年は35周年ということと節目の展覧会です。もつと仮名書道の魅力を御来場下さった方々に知っていただく書作展にしたいと考えております。変体仮名を詳しく説明したプリントを準備したいと考えております。

(阿部律子)

第23回飛雲会展 書道研究 飛雲会

● 10月19日～23日
● アートフォーラム



展覧会も23回目となると来場者も顔馴染の方が多くなり、静寂で凜とした雰囲気の中で文字の読み方や意味の解説を求められる場面が多くなりました。庄内の教養の高さが垣間見れて嬉しく次回の励みになりました。

書道に興味を抱いてくれる若い方が増えて来た事は何より嬉しい事です。老若男女を問わず、日本の伝統文化の継承の一助となれば幸いです。

(渡部飛雲)



創立40周年記念吟詠大会 日本九重流鶴城清吟会

● 10月23日
● 中央公民館

「心に残る漢詩を詠う」をテーマに2題の構成吟を公演した。静の吟詠に動きの伴う剣舞、詩舞、華道、書道を取り入れ、吟と調和した舞台を演出し、会場を引き付けた芸術性高い公演であった。

多くの会員が参加できる態勢と日ごろの研修を充分発揮できるように練習を工夫し、総力をあげての公演にする。来場の市民に感動して頂けるような演出をしたい。

(佐藤刀洲)

第80回つるおか小品盆栽展 鶴岡小品盆栽会

● 10月21日～23日
● 中央公民館



小品盆栽の樹々は天候に左右される事が多く、年間の管理の如何が秋の紅葉、実成り、松類の葉に成果が出ます。会員が日常育てた盆栽で秋の風情を演出でき観賞者に味わっていただけたいと思います。

展示期間中毎回実施している講習会も盛況で25名程の聴視者にリピーターも多く内容も充実してきました。その中に数名の参加の方もいて「全員が共有できる課題を」と考えると共に会員の増強も図りたいと思います。

(上林節男)



第4回フォト・アイ写真展 フォト・アイ

● 10月26日～30日
● アートフォーラム

天候が定まらない日々でしたが、多くの来場者がありました。丁寧に鑑賞して下さい、また、励ましの声をかけていただきました。

写真撮影に関する感性や技術をさらに学ぶ努力を続けます。撮影技術に関して会員相互に協力・努力してゆく所存です。継続して講師を招聘しての研修会も考えています。

(佐藤 稔)

フォトサロン写楽写真展覧会 フォトサロン写楽

● 10月26日～30日
● アートフォーラム



写真展覧会のメインテーマは「それぞれの視点」。撮影者それぞれが違う視点で捉えたバラエティに富んだ作品で「写真は見せるものではない、伝えるもの」をコンセプトにした作品展を開催致しました。

来年度も「それぞれの視点」をテーマに被写体に迫り、心に響く作品を目指します。コンセプトは「伝える」。感動を覚えるようなシチュエーションを目指します。これからも、ご指導を賜ります様お願い申し上げます。

(岡崎利男)

秋季さつき展 鶴岡さつき盆栽研究会

●10月28日～30日
●中央公民館



今年も夏期の天候不順で大変でしたが、会員皆さんの丹精込めた盆栽が会場いっぱいうめつくしました。秋季展示会は6月の花開期展示会の様な華やかさはありませんが、色々な樹形の幹模様をご来場者を楽しませてくれました。遠くは秋田内陸、又酒田、遊佐等各方面からのご来場者が多く今年も300名を超える盛況で大変うれしく感激しております。

今後とも一層精進し研究を重ね、愛好者の皆様に喜ばれるような作品にしたいと思います。(進藤慶順)

第29回庄内なつメロ会発表会 庄内なつメロ会

●10月30日
●中央公民館



なつメロの他に保育園児たちの剣舞、舞踊なども取り入れてみました。例年よりこぼれているスクリーンでのカラオケスタジオは今回も人気で、30周年を迎えた庄内なつメロ会に相応しいステージづくりができました。

今年も保育園児の出演がステージの調味料となりいい味が出ました。来年もこのような味つけをして、観客を楽しませたい。(加藤隆三)

朝日俳句・短歌・川柳合同展 朝日俳句の会ほか

●10月29日～11月3日
●朝日中央コミセン



今年度も俳句部門において、小中学生のほぼ全員からの出品があった。また、例年数少ない川柳部門の出品数が増えたことは望ましいことである。俳句292点短歌3点川柳18点であり、趣向を凝らした作品が多かった。

小中学生からは引き続き数多く出品してもらえよう関係機関に働きかけるとともに、俳句等により親しんでもらえるよう児童生徒への指導も行なっていくたい。また、会員一同より一層の研鑽に励んでいきたい。(小野寺一郎)

第13回つるおかい出の歌愛唱会 つるおかい出の歌愛唱会

●10月30日
●西郷地区農林活性化センター



会場のイス席125脚しかなく、ステージ前に上敷を敷いて対応しました。西郷地区近隣の皆さんから声援をいただき、アットホームな雰囲気の中で発表会を出来たことを、幸せに感じ、会場的大小ではないと感じました。

2017年も同じ場所で開催することを役員会で決定致しました。プログラム構成において中身を充実させる事と観客とのコミュニケーションを多く取り入れたいと思っています。西郷地区の芸能文化活動をより活発化させたい。(小林達夫)

感動を呼ぶ作品並ぶ 庄内写真研究会

●11月2日～6日
●アートフォーラム



市芸術祭に参加して23回目の庄内写真研究会写真展を開催し、出品会員7名で各自のテーマに精力的に取り組む、全作品に豊かな個性が表現され、熱意と感動が伝わったと大好評を頂きました。

今回も全作品に込められた撮影者の、熱意が観覧者の皆さまに必ず伝わったことと思います。

第68回庄内書道展覧会 鶴岡書道会

●11月3日～6日
●アートフォーラム



ほぼ前年度並みの出品数であった。見やすい展示(高さ)を心掛けた。実施要項の配布が遅いとの声があった。時期的に地域の芸術祭と重なるためか、一般の応募が少なかった。

より多くの出品者、出品数を見込みたいので、実施要項の配布時期を早めたい。(佐藤政一)



秋の夜長の朗読三昧 劇団麦の会

●11月5日
●第三コミセン

2年続けての朗読会でした。昨年の反省点を踏まえて昼・夜の2回公演に、また小学生向けの演目を取り上げ、擬音効果など工夫して楽しい朗読会にしたつもりでしたが、残念ながら小・中・高生の入場は「ゼロ」でした。

(加賀山捷三)



合同謡曲大会 宝生流鶴岡五雲会・鶴岡観世流同好会

●11月6日
●第二コミセン

各団体とも素謡の音が大きく揃っていた。謡曲本を読む感じの前屈姿勢の方が若干見られた。胸を張って大きく謡いたい。間の取り方も上手になってきた感じ。一に稽古二に稽古三、四が無く五に稽古。

(齋藤 衛)



40周年(第134回)記念吟詠大会 日本九重流朝陽清吟会

●11月12日
●東京第一ホテル鶴岡

表記公演名の「芸術大会」にふさわしい催しとしてプログラムを始め吟味、一点の間違ひもなく素直な吟詠と来場者に対する、おもてなしに全力を注いだことに満足しております。第134回目にして「芸能大会」を卒業か?

「芸術」と「芸能」の違いを今一度見直し「芸術祭」参加にふさわしい催しができるか再度検討してみたい。審査員の真剣な審査に深く感謝し今後の更なるご活躍を期待する。

(百瀬皓洲)



みんなの演奏会 創立70周年記念定期演奏会 鶴岡放送児童合唱団

●11月3日
●中央公民館

創立70周年を迎えての記念すべき公演内容とした。たゆまぬ子供達の歩みとなる演目と、卒団し中央で活躍している先輩達のソロのステージと新作のミュージカル。最後は団員・卒団生達と保護者70名が創立の時代や過渡期を象徴する名曲4曲を歌い上げ、祝う事が出来た思い出に残る公演となった。

団を支え続けてくれた中学校3年生が4名も卒団となる。パートのバランスも考えなければならぬ。団員数と選曲は、二人三脚で有り、今後もたゆまぬ努力が必要である。(伴 和香子)



荘内金管合奏団秋の公演2016 荘内金管合奏団

●11月5日
●アートフォーラム

当日は会場が満席になるほどのお客様からご来場いただき演奏する者として至上の喜びでした。また、大変ご好評をいただき、金管楽器の響きを多くの方々へ届けたいという我々の気持ちには届いたと思います。

(伊藤 聡)



吉統舞踊学園現代舞踊公演 吉統舞踊学園

●11月6日
●中央公民館

中央公民館ホールの持つ機能を全て活かして舞台創りが出来た。成功のひとつは、出演者の成長に目を見張るものがあつた事。本当に完成度の高い舞台をお見せする事が出来て嬉しい。関係者一同ただ感謝あるのみです。

駐車場の事など案じましたが、満席のお客様に恵まれて幸いだった。これを大切にして明年の舞台もより良いものに創り上げ、皆様をお迎え出来る様にしたい。客席の少なさを控室の手せま等、苦心を重ねた成果が有難い。(吉統正義)

第15回定期演奏会

鶴岡響友会吹奏楽団



●11月12日
中央公民館

今回は「吹奏楽でオペラを」と題しての公演、吹奏楽でのこういった公演は恐らく鶴岡響友会にしか出来ない企画であり、吹奏楽での新たな響きを求めている演奏でしたが、何事も回を重ねることの必要を大いに感じた公演でした。

オペラ紹介を今後も続けたい。いつの日か鶴岡でオペラ公演が当たり前のようになり開演されるよう、オペラを紹介していきたいものです。ここしばらくはオペラの名曲を演奏し、近くオペラを演奏会形式で公演を行いたい。(堀 公明)

第76回公演「想い出のギョウザ」

劇団だいこん座



●11月19日
中央公民館

あいにくの天候にもかかわらず、御来場いただきました観客の皆様には、誠にありがとうございました。昨年引き続きオリジナル脚本での公演は、まずまず好評とはいえず、準備不足の部分が垣間見られ、今後への反省点となりました。

ゼロから創作するという作業は簡単ではなく、執筆の遅れは練習時間を削る事につながります。今後はオリジナルにこだわらず、柔軟な作品選びが必要であると感じました。

(佐藤秀樹)

第17回定期演奏会

スイング・クレイジズ・ジャズ・オーケストラ



●11月20日
中央公民館

昨年のゲスト寺泉憲さんのアンコール出演となり、ご本人もノリノリの楽しいステージになりました。「しあわせの黄色いリボン」の楽曲では舞台上に一枚の黄色いハンカチの演出に会場も湧き、一体感と温かい空気に包まれました。

定期演奏会も回を重ねること17回となり、ビッグバンドジャズの楽しさを共有している事を実感しています。新文化会館の建設も佳境に入り期待もふくらみます。またゲストの方々も楽しいステージを創りたいと考えています。(橋本祥造)

baumクーヘンオータムコンサート

baumクーヘン



●11月23日
中央公民館

幼児から一般まで過去最高の総勢106名からなる演奏会は、ピアノ・声楽だけでなくフルート・ファゴット・トランペットと多彩で華やかなステージとなりました。年々参加人数が増えて会が浸透してきているのが実感出来ます。

地元で育った子供達が成長し、進学等で経験を積んで実りある演奏を聴いてもらえる場所として、今後も引き続き活動していきたいと思えます。

(乙坂美香)

鶴岡剣聖会「剣と扇の舞」

剣詩舞鶴岡剣聖会



●11月23日
第三三三三

昨年度(優秀賞)の課題をふまえ、剣詩舞の魅力はどう伝えるをテーマに取り

組んできた。衣装、舞台の工夫と共に情感の表現力はレベルアップしたと自負している。群舞も入れて変化をつけてみた。すべて手づくりでの準備は好感を得たと思う。

今年も会場いっぱいのお客様に2時間20演目で応えた。パターン化・マンネリ化しないように演目の吟味と構成の工夫をしていきたい。剣詩舞に対しての理解者とサポーターを増やし鶴岡の文化づくりの一つになればと思っている。(佐藤昌直)

鶴岡20周年記念公演「華のかけりフラメンコへの想い」

AKIKOフラメンコスタジオ



●11月27日
東京第一ホテル鶴岡

初のホテルでの公演、庄内の美しい風土「海」をテーマとした作品はナレーションを入れ物語性を高めた演舞となりました。又観客と踊り手が一体となり生ギター・カンテの響きわたる空間を共有できたと思っております。

感動の舞台、技術の向上、地域との融和をモットーとしてきましたが、この度3度目の優秀賞をいただき地域との融和を深めることができました。来年は多くの皆様に感動してもらえる新たな記憶となる舞台を創ります。(富樫昭子)



**鶴岡吹奏楽団
創立40周年記念第32回定期演奏会**

●12月4日
●中央公民館

今回の定期演奏会は、これまでの40年間の活動を振り返るとともに、4月に惜しくも亡くなられた鶴岡出身の偉大な作曲家である真島俊夫先生にスポットをあて、幅広い楽曲で吹奏楽の魅力をお届けできました。これからも「鶴吹」の愛称で地域に根ざす社会人吹奏楽団として、吹奏楽の楽しさ・素晴らしさを伝え、地域の吹奏楽の発展に貢献できますよう、より一層精進して参りたいと思います。
(高橋宏知)



第9回写団はぐる会員写真展

●11月30日～12月4日
●アートフォーラム

テーマに沿っての撮影が得意、苦手な人もあるが撮りためた中から作品の選択を検討し合った。撮影場所の問いや題名誤記の指摘をいただき、説明にとまどったり、馴染みとなった方が何度も来場し助言、お褒めと話題多い交流の場となった。写真の多様性を考えながら表現方法の向上をめざす、変わる社会情勢の中で撮影方法を学ぶ、地域を意識したテーマの持ち方、とらえ方を考える、写真展を世代交流、生涯学習の場として写真を体験するやり方も考えてい。
(板垣 修)



**バラエティに富んだ芸術文化祭
ふじしま文化フェスティバル2016**

●10月29日～11月5日 ●藤島地区地域活動センター ほか
「百花繚乱」ふじしまの芸術文化祭
作品展示・文化講演会・芸能発表会・音楽祭

藤島芸術文化祭が10月29日から31日まで開催され、絵画など228点の展示や合同茶会、民話の語り、また相撲キヤスターの銅谷志朗氏による「舞台裏から見た大相撲」の演題で講演会がありました。30日には芸能発表会が行われ、11団体2個人23演目を披露。また11月5日には、第27回ふじしま音楽祭が開催され、12団体310名が出演しました。期間中、5地区の芸術祭、各小中学校及び庄内農業高校で文化祭も催されました。
(ふじしま文化フェスティバル 実行委員会)



**芸術に触れた楽しいひと時
第32回はぐる秋まつり**

●11月3日～11月6日 ●羽黒体育館・羽黒コミセン
作品展示
芸能発表会

「はくろ秋まつり芸術文化祭」が今年も開催され、作品展示、芸能発表、囲碁・将棋・俳句大会が行われました。

展示部門は、書道・絵画・写真など1,200点余りの多彩な作品が展示されました。6日の芸能発表会には幼児から大人まで17団体414名が参加し、歌あり、踊りありの様々な発表に会場は盛り上がりました。この間、多くの市民が芸術に触れ、楽しいひと時を過ごしました。
(羽黒芸術文化祭実行委員会)



多くの地域の方が成果を発表

第48回くしびき文化祭

文化財めぐり

作品展示

●10月23日～11月13日 ●榎引公民館 ほか



本年度は、酒田市の文化財めぐりを皮切りに行われました。展示部門には地域の保育園・小中学校をはじめとし、地域内外から書道・絵画・写真・手工芸・生け花等の力作731点が寄せられました。保育園や学校ではクラス単位で見学に訪れ、賑やかに互いの作品に見入っていました。

発表部門では、特別出演の大山いざや巻保存会キッズ華の会や榎引西小三年生、初出演の剣詩舞の演技に、特に大きな拍手が送られています。

くしびき文化祭実行委員会



芸術の秋に相応しい力のごもった発表

平成28年度あさひ産業文化まつり

朝日中学校合唱祭

作品展示

●10月22日～11月3日 ●朝日中学校・朝日中央コミセン



10月22日の朝日合唱祭を皮切りに、10月29日～11月3日までの作品展示、11月3日まつりメイン日の芸能発表・おまつり広場まで多くの皆様から会場に足を運んで頂きました。展示部門においては書道、絵画、俳句など小中学生・地域の皆さんの力作1,112点が多くの方々の目を樂しませ、ステージ発表では11団体13演目の力のごもった発表に会場が大いに盛り上がりました。芸術の秋に相応しい地域行事となりました。

あさひ産業文化まつり 実行委員会



大勢の観客を魅了した芸術祭

第33回 温海文化祭

作品展示・ステージ発表

茶会・バザー

●10月28日～11月3日 ●温海ふれあいセンター



地域住民の創作活動を広く公開する場として10月28日から11月3日まで「温海文化祭」が開催されました。展示部門では、絵画、書道、俳句、陶芸、生け花など幼児から一般まで1,042点の力作が展示され、多くの方の目を樂しませていました。

最終日は、6団体、21演目のステージ発表があり、日頃の練習の成果を発表しました。幅広い年代の方々が出演し、艶やかな踊りや力強い演奏を練り広げ、終始大勢の観客を魅了していました。

温海文化祭実行委員会



平成28年度 総合型文化クラブモデル事業

事業の目的は

子どもの頃から芸術文化に触れ親しむ機会を設けることにより、子どもの豊かな心と感性を育むとともに、地域への愛着と誇りの醸成を図ることを目的として、山形県芸術文化協会が、鶴岡市芸文協・新庄市芸文協・山辺町芸文協の県内3団体をモデル地域に選定し、3年程度を実施年として展開することにしました。

地域の放課後子ども教室と連携

今の子どもの達は、下校してから、家庭に戻っても、塾や習い事などでなかなか忙しいのが実態です。

そんな中で、地域で行っている放課後子ども教室の活動と一緒に、多世代交流の場を創造するモデル事業を実施できる地域として、上郷・大山・西郷地域と話し合いを行い、連携して実施することにしました。

体験する文化芸術分野について

上郷地域では、詩吟・文化箏教室を計画、大山地域では茶道・文化箏など、西郷地域では、絵手紙や琵琶・茶道、昔語りなどを計画し実施しました。

発表会で成長する子ども達

上郷地域の文化祭・地域づくり住民のつどいに参加しました。

子ども達は、地域の方々の前で、堂々と詩吟の「偶成」を吟じ、文化箏では「チュウリップ・ゆうやけこやけ」を演奏しました。住民の方々から、頑張った子ども達に大きな拍手がありました。



発着から生まれる魅力発信
講師 工房つどい代表 福田 咲乃 氏



やさしくみつめる人ご自然
発着から生まれる魅力発信
講師 工房つどい代表 福田 咲乃 氏

子ども郷土芸能

芸術まつり

未来につづけ文化のやまがた
鶴岡ジュニアオーケストラ出演

日時：平成28年11月6日(日)

場所：やまぎんホール

(山形県民会館大ホール)

主催：山形県芸術文化協会

共催：山形県民会館指定管理者

(株)ステージアンサンブル東北

後援：山形県

プログラム

- ・藤間乾舞踊研究所乾ふじ会【天童市】
- ・伝国の杜こども狂言クラブ【米沢市】
- ・千川楽栄会【金山町】
- ・鮭川歌舞伎保存会【鮭川村】
- ・鶴岡ジュニアオーケストラ【鶴岡市】
- ・スワンバレエスタジオ【酒田市】
- ・青葉みつるダンシングスタジオ【山形市】
- ・J・S・N・I・P・E・R【寒河江市】

鶴岡ジュニアオーケストラは、後半最初の演奏でした。子ども(小学生低学年〜中学生)に大人の指導者を含めて総勢75名程の大編成での参加となりました。(大型バス2台)



指揮者は深澤康之さん(大泉小学校 教頭先生)

演奏曲目は、一曲目 フランツ・リ

スト作曲の「ため息」より自分達で編曲して演奏。

二曲目が、「見上げる空」

自作の曲に作詞をして、子ども達が歌うのでとても感動する演奏でした。

三曲目は、「くじら12号」(JUDY AND MARY、作詞：TACK作曲：TAKUYA)で、各楽器のスタンドプレーなどがあって、観客からの拍手に応援されました。鶴岡を代表してとても堂々と素晴らしいハーモニーを聞かせてくれました。今後ともご声援・ご支援宜しくお願い申し上げます。(梅津芳春)

県文化振興プラン

山形県文化振興プラン

今後おおむね十年間の文化芸術の振興施策の方向を示す「山形県文化振興プラン」が策定されました。(平28.3)「文化で紡ぐふるさと山形輝く未来」を基本目標とし、「親しむ」「育む」「活かす」の三つの施策展開方向から取り組めます。特に、人口減少問題の克服や成長力の確保に向けた地方創生の動きを踏まえ、文化を通じた地域への愛着と誇りを醸成する取り組みや、山形の優れた文化を観光や産業の振興、地域の活性化につなげる取り組みなどを盛り込んでいます。

一、県民誰もが文化芸術に親しむ環境づくり(親しむ)

二、山形の文化を活かした人づくりと山形の文化の向上(育む)

三、山形の文化を活用した地域活性化(活かす)

タクト鶴岡

Tsuruoka Art Culture Terrace
鶴岡の芸術文化が集う場所



愛称の決定について

最優秀賞(採用作品、1点)

採用作品応募者

池永一広氏(大阪府在住)

応募作品

タクト

新文化会館の愛称の選考においては、愛着や親近感に加え、子どもから年配の方まで覚えやすく、言いやすいこと、語感が良いことも選考基準にいたしました。また、獨創性に富みアイデア溢れる作品を多数応募いただきたいということに加え、新文化会館を全国に広くPRするためにも、県内外から広く募集を行いました。

昨年9月1日から10月15日までの間募集した結果、全国から1,714件の応募をいただきました。

選考方法については、次世代を担っていた若者の意見を取り入れたく、市内11校の高等学校等の生徒会の皆さんによる一次選考を行い、その中から市内において選考を重ね、このたび「タクト鶴岡」という愛称に決定いたしました。

タクトは、鶴岡のT、アート・芸術のA、カルチャー・文化のC、テラス・場所のTの頭文字から「鶴岡の芸術文化が集う場所」という意味と、ドイツ語で指揮棒を表すことから、「本市の芸術文化が豊かなハーモニーを奏でる拠点施設になるように」との意味が込められております。

工事の進捗状況について

文化会館改築工事については、現在は屋根工事や外装・内装の仕上げ工事を行っております。屋根・外装仕上げ工事は、昨年末からの天候不良により遅れておりますが、工程の最も掛かる舞台・ホール客席内装仕上げ工事は、当初工程通り進捗しており、全体工期への影響はありません。

オープニングイベントについて

オープニングイベントといたしましては、来年3月のグランドオープンに皮切りに、約1年間をオープニングイヤーと位置付け、管理運営実施計画にも記載したクラシックコンサートや劇団によるミュージカル、歌舞伎やお笑いなど、様々な形態の事業をバランスよく展開することで、多くの市民の方から足を運んでいただきたいと考えております。

開館後は、芸術文化協会の皆様から自由な発想により様々な公演や催しを開催していただき、多くの市民から愛され、タクトの愛称に込められた市民が集い、本市の芸術文化の拠点施設となれるよう努めてまいります。今後ともご支援とご協力をお願いいたします。(鶴岡市教育委員会社会教育課)

鶴岡市文化会館設備充実の募金活動

総額二百万円を鶴岡市に寄付

鶴岡市文化会館は、建設工事の追加や変更などで、工事費が増額になるなど市民の関心が深まっていますが、予定通りの完成を待ち望んでおります。

私も芸術文化協会は、新しい文化会館が、芸文の絆を深め、文化都市鶴岡の歴史と伝統を発信し、創造的にあった活動を拓く活動を共有する多目的施設として、そして私共の活動の拠点として、また次世代を担う子供たちも、長く活動し、感性と創意を生かした芸文

の華を大きく開花させることができる施設として念願しております。

平成二八年四月〜九月まで、芸術文化協会の会員各位から一人千円以上を目標に総会で承認をいただき、浄財拠出の募金活動を実施しました。

前会長故山崎誠助氏のご家族と、前事務局長の石田雄氏からは、過分なご厚志を賜り、特定非営利活動法人の役員東山昭子会長や理事・監事の方々からも特段のご尽力、そして各加盟団体の皆様方お一人おひとりよりご協力いただきましたこと、改めてお礼申し上げます。

鶴岡市は、文化会館の設備充実のために受納しました。(梅津芳春)

編集後記

世の中が内外ともに目まぐるしく変化する中で、当鶴岡市芸術文化協会もまた、この一年間で大きく変わった。昨年四月の総会で、特定非営利活動法人(NPO)に組織替えし、役員体制も変わって新しい一歩を踏み出した。

この一連の流れの中で、長く事務局長の立場でこの「芸文だより」の編集に携わってこられた石田雄氏に代わり、思いがけず私が編集長に指名された。慣れないこととはいえ、「この部分は後退した」と言われないように、五十嵐悦郎・高山千代子両編集委員ともども精進すると同時に、皆様のご指導・ご協力をお願いするばかりである。

なお、3号・4号についてご意見などあれば、事務局にお寄せいただきたい。(加賀山捷三)